



## 文字の読み書きが困難な障害～「ディスレクシア」とは？

「ディスレクシア」という障害の認知が近年高まってきています。一般的には、発達の遅れはないものの、文字の読み書きに困難がある状態を指し、「読字障害」「読み書き障害」などと呼ばれることもあります。

近年ではディスレクシアの方を支援する動きも出てきています。ディスレクシアとはなにか、支援の動きはどうか、その一端をご紹介します。

### ディスレクシアの見え方の一例

■文字が逆さになったり横になったりしてみえる

ABCDEFGH あいうえお  
↓  
HABCDEFGH あうえお

■文字が動いたりバラバラに見えたりする

和歌山県は素晴らしい地域です

■文字が逆さに見える

味畑山県お素晴らしい地域です

※上記はあくまで一例です。症状は他にもあるほか、個人差もあります

### ディスレクシアの工夫の一例

■読みたい行に定規をあてる

「ディスレクシア」という障害の認知が近年高まってきています。一般的には、発達の遅れはないものの、文字の読み書きに困難がある状態を指し、「読字障害」「読み書き障害」などと呼ばれることもあります。

■UD フォントの使用

この文章は2018年以降のWindows10・11に採用されている「BIZ UD P ゴシック」というUDフォントで書かれており、可読性に優れています。

■読み間違いやすい文字に色を付ける

「ディスレクシア」という障害の認知が近年高まってきています。一般的には、発達の遅れはないものの、文字の読み書きに困難がある状態を指し、「読字障害」「読み書き障害」などと呼ばれることもあります。

文字の認識・処理が困難  
ディスレクシアは欧州で早くから知られていました。トム・クルーズやキアヌ・リーブスなど著名俳優がディスレクシアであることを公表したことを受け、この障害への知名度が高まったといわれています。  
ディスレクシアには大きく「読字障害」と「書字障害」の2つがあります。読字に関しては文章をスラスラ読めなかったり、文章の区切り方が不自然だったりといった症状が、書字に関しては小さい「つ」や「ゃ」のほか「かあ」のように伸ばす言葉の間違ったり「ぬ」と「め」など似た文字を誤って記載したりといった症状がみられます。  
周囲からは「文章を読むのが極端に遅い」「文字をよく書き間違える」など、単に「国語の成績が悪い」とみなされ、障害があるとはわかりづらいのが実情。結果として幼い時に適切な支援を受けられず、学年が進み難し

い漢字を習ったり、英語を習うようになると困難の度合いが高まり、結果として学習全般が苦手になってしまいうケースが多いと指摘されています。  
文字が反転し回転し流れる  
フランスを拠点にウェブサイトのアクセシビリティツールの開発を手掛ける「フアシリティ社」の日本人の長井さんに、ディスレクシアの症状を持つ方の事例を紹介してもらいました。  
《ケース1》  
英単語が覚えられない  
Aさんはbとdのように似たアルファベットの判別が困難で、英単語を覚えることが苦手でした。そこで覚えられない英単語、例えば野菜を示す「vegetable（ベジタブル）」は、アニメ「ドラゴンボール」のキャラクター「ベジータ」「ブルマ」と紐づけて覚えるといった工夫で英語の学習ができるようになりました。

《ケース2》  
ひらがなで気づきにくい  
Bさんは活発な小学生。コミュニケーションも問題ありませんが、文章の音読が極端に苦手。「い」と「こ」、「く」と「へ」などを取り違えることが多かったそうです。あるときBさんが「目の向きが変わればいいの」とつぶやいたことを聞いた父親が視覚に障害があるのではないかと気づき、専門機関を受診。ディスレクシアの可能性が高いことがわかり、今後、特性に合わせた支援がとられる見込みです。

《ケース3》  
大人になって発覚  
Cさんは文章を読むとすると文字が流れて見ることがあるほか、会社で配布された資料を読むのが他人よりも極端に遅いことに気づき、おかしいと感じていたといいます。そこで、ワープロ打ちの文書を自分が読みやすいように手書きで書き換えたり、自作の定規を文章に当てて読

むなど工夫をしていたそうです。ところが偶然見つけたテレビで紹介されていたディスレクシアの特性が自分の悩みと合致したことから、合点がいったといいます。  
治らないから工夫でカバー  
ディスレクシアは現在の医学では治らないとされています。また、ディスレクシアの症状は人によって多様なため、個人に合った様々な工夫により読み書きを助け、文字認識に関する困難を減らす、という対応がとられることが多いそうです。  
一般的には行間や字間を広げたり、読み間違いそうな文字に色をつけたり、あるいは可読性の高いユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を活用したりといった工夫が有効といわれています。Windows10や11でもUDフォントが標準で使えるようになっていきます。また、フアシリティ

社は視覚に関する様々な障害を持つ方のために、ウェブサイトの配色や文字のサイズ、行間や字間などを調整できるサービスを提供しています。欧米ではディスレクシアの方を対象に、スマートフォンやタブレットのカメラで読み取った文章を改変して表示したり、読み上げたりすることができるアプリをリリース済み。現在開発中の日本語版は中小企業だけでなく、児童・生徒向けにタブレット端末の普及が進む教育現場でも活用してもらいたいと期待しています。

日本ではまだまだ認知が進んでいない「ディスレクシア」。人口の5%程度いるのではないかと推定されています。症状の特性に加え、診断できる機関も少ないこともあり、気づかないうちに学習に大きな支障が出る事態に至ってしまうことが懸念されます。一方で、大学入試共通テストで拡大文字や書体の配慮がなされるなど、徐々に支援も広がっています。  
志場久起

今後とも認知が進み、生活する上でのバリアが少しでも低くなることを願うばかりです。  
（志場久起）



- 【参考ウェブサイト】  
■国立成育医療研究センター <https://www.ncchd.go.jp/hospital/sickness/children/007.html>  
■一般社団法人日本ディスレクシア協会 <https://jdyslexia.com/>  
■NPO 法人エッジ <https://npo-edge.jp/>  
■ファシリティ・ジャパン <https://www.facil-iti.jp/>

## わかやま SDGs パートナースhip 基金 ご寄附を引き続き募集します

みんなの力で SDGs 実現を！

わかやま NPO センターが 2021 年度から運営を開始した「わかやま SDGs パートナースhip 基金」では、県民のみなさまからのご寄附を原資に、国連 SDGs（持続可能な開発のための目標）の達成に向けて取り組みをすすめる和歌山県内の NPO・ボランティア団体を応援します。

2 年目となる今年度は、SDGs ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」に関する活動をおこなっている団体に対して助成を実施します。3 月 1 日の締め切りまでに 30 団体を超えるご応募をいただき、審査の段階に進んでいます。本基金は 2023 年度以降も実施してまいります。みなさまからの基金へのご寄附を募集しています。

### 事業の流れ

1. 本事業の趣旨に賛同いただいた和歌山県内外の個人・企業のみなさまから、1 口 3,000 円でご寄附のご協力をお願いします。  
2021 年度は 72 件・285,000 円、2022 年度は 70 件・224,000 円（2 月 24 日現在、1 口 3,000 円以外の寄附を含む）のご協力をいただきました。
2. 集まったご寄附の額を元に助成事業枠を設定し、支援を希望する NPO・ボランティア団体の募集を行います。  
昨年度は 3 万円 × 10 団体 = 合計 30 万円の助成枠を設定し、募集を実施。40 件を超えるご応募をいただきました。  
今年度も 30 件を超えるご応募をいただき、わかやま NPO センターからの拠出金を合わせ同程度の助成を実施します。
3. わかやま NPO センターが設置する審査委員会（外部委員を含みます）による審査をおこない、支援の優先度合いが高いと判断された団体に助成を実施します。  
今年度は SDGs ゴール 3「すべての人に健康と福祉を」をテーマに助成先を公募しました。2023 年度の方針は今後検

討の上、設定します。

4. ご寄附いただいた方には、翌年 1 月頃に寄附金受領証明書をお送りします。確定申告により所得税等の控除が受けられます。

5. 事業終了後、各助成先の取り組みを公開します。昨年度助成先の取り組み事例はこちらから ▶  
今年度助成先については 3 月中旬に決定し、8 月までの間、事業を実施します。今年 10 月頃をめどに取り組みをウェブサイトで公開する予定です。



### ご支援の方法

- ▶ 1 口 3,000 円から受け付けます。現金によるお支払いのほか、銀行振込（振込手数料はご負担ください）、クレジットカード決済（決済手数料はかかりません）がご利用いただけます。
- ▶ 今後も継続してご支援いただける場合は銀行口座からの自動引落、クレジットカードからの継続決済のご利用が可能です。詳しくはお問い合わせください。
- ▶ 本基金へのご寄附は寄附金税制の対象となります。

くわしくは専用ウェブサイトをご覧ください。クレジットカード決済によるご寄附申し込みフォームもございます。<https://wnc.jp/works/sdgsfund/>

### 【運営】

認定特定非営利活動法人わかやま NPO センター  
〒640-8331 和歌山市美園町 5-6-12  
TEL 073-424-2223 FAX 073-423-8355 E-mail info@wnc.jp  
【事務所不在時、電話は和歌山県 NPO サポートセンターに転送されます】

